

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第425号 平成24年10月31日

## イグノーベル賞

日本人の山中教授の医学・生理学賞の受賞によってノーベル賞が大きな話題になっていますが、それより先、9月20日にイグノーベル賞の授賞式が行われ、日本人が音響賞を受賞しています。

これで日本人の受賞は6年連続、17回目の受賞となり、受賞者は42人となりました。

イグノーベル賞というのは聞きなれない賞ですが、歴史は結構古く、1991年に創設されています。ノーベル賞は、人類のために最大の貢献をした人々に与えられる賞ですが、イグノーベル賞というのは「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に対して与えられる賞とされています。

また、時には、「水爆の父」として知られるエドワード・テラー氏や世界の反対を押し切って水爆実験を強行したフランスの大統領、ジャック・シラク氏に対して平和賞が贈呈されるというように、皮肉を込めてイグノーベル賞が与えられる事もあります。

イグノーベル賞を企画運営するのは、サイエンス・ユーモア雑誌「風変わりな研究の年報」と、その編集者であるマーク・エイブラハムズ氏です。また、同賞には、工学賞、物理学賞、医学賞、心理学賞、化学賞、文学賞、経済学賞、学際研究賞、平和賞、生物学賞などの部門があります。

また、ノーベル賞では、式の初めにスウェーデン王室に敬意を払うのに対して、イグノーベル賞では、スウェーデン風ミートボールに敬意を払う事になっているようで、何処までが冗談で、何処からが本気なのか良く分かりません。

結局のところ、イグノーベル賞というのはノーベル賞のパロディ、いや遊び心と受け止めた方が健康的なような気がします。現実には、表彰されることに反発したり、表彰式に出席しない受賞者も多々あるようです。

勿論まともな研究に対しても、イグノーベル賞の定義にのっとってさえいれば受賞する事もあるという事で、余り人々の目に触れない地道な研究に対しても注目を集めさせ、科学の面白さを再認識させてくれる、と評価する人もいます。

因みに今年の受賞者は下表の通りで、題名を見ただけでは研究内容が見当もつきませんし、眉唾な感じのするものもあります。

しかし、そうした中で、日本人が受賞した「おしゃべり妨害機（スピーチ・ジャマーというそうです）」は、ユーモアが有って、なおかつ、科学的にも優れた研究ではないかと思います。

この装置を開発したのは、産業技術総合研究所の栗原一貴氏と科学技術振興機構の塚田浩二氏のお2人ですが、「おしゃべり妨害機」のスピーカーには、苫小牧のトライステートという会社の製品が使用されていると聞いて、こういういぶし銀のような会社が北海道に存在する事を、嬉しく感じています。

この「おしゃべり妨害機」は、話をしている人にマイクとスピーカーを向けて黙らせる装置です。そんな事が出来るのかと半信半疑ですが、原理は、マイクで拾った声を0.2秒後に相手に返すと、話し手は自分の声が少し遅れておうむ返しされることに混乱し、旨く話が出来なくなるというものです(10月20日付北海道新聞)。

世の中、かなり雑音をまき散らしている人もいますから、そういう人にはこの装置は有効でしょうね。もっとも、私自身、そんなスピーカーを向けられないように注意する必要があるなど、自覚はしています。(塾頭：吉田 洋一)

#### <参 考> 2012年イグノーベル賞一覧

音響学賞	おしゃべり妨害器の開発
解剖学賞	チンパンジーは、他のチンパンジーの尻の写真で個体識別できる事を解明
平和賞	古い爆薬を新しいダイヤモンドに変換
化学賞	住民の髪の色が緑に変色した謎の解明
流体力学賞	人がコーヒーの入ったカップを運んで歩く時、何故コーヒーがこぼれるかをつきとめるための研究
心理学賞	身体を左に傾かせると Eiffel 塔が小さく見えるという研究
物理学賞	アメリカ女性の髪形のポニーテールの動きとバランスを計算した研究
神経科学賞	死んだ鮭の頭の中でも有意な脳活動が検出できるという研究
医学賞	大腸内視鏡による治療時に、電気焼灼器により患者の結腸ガスが爆発する可能性を最小限に抑える方法を医師にアドバイスした事に対して
文学賞	「報告書についての報告書についての報告書について」という米国政府監査院の報告書に対して